



Japan Society of Internship  
and Work Integrated Learning

# 日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

## 2020 年度 No.2

### ■目次

- ・第22回大会開催に向けて
- ・理事会報告
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・学会表彰委員会報告  
(2021年度高良記念研究助成募集 他)
- ・企画研究委員会報告
- ・選挙管理委員会からのお知らせ
- ・支部活動報告  
(北海道支部、東日本支部、関西支部、九州支部)
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報

### 第22回大会開催に向けて

皆様はじめまして。このたび第22回大会実行委員長を務めさせていただく札幌国際大学の原と申します。宜しくお願い致します。

5月になりやっと春らしい気温になった北海道ですが、第22回大会は北海道支部の担当で開催されます。開催月の9月は既に秋風が吹いている時期なので、北海道でも北の地域では暖房をつけ始めているところが出始めているのではないのでしょうか。

北海道支部では大会開催に向けた支部会での話し合いを複数回設け、協議を重ねた結果、大枠は以下のとおりで決定とさせていただきます。

- ①開催日時 2021年9月18日(土) 10時～19時
- ②大会会場 Zoomを用いたオンライン  
(送信会場：札幌国際大学)

昨年の今時期は一回目の緊急事態宣言が発令され、日本中の繁華街から人が消えました。誰もが日本の行く末に不安を持ちながら、ソーシャルディスタンスにおけるニューノーマルな生活スタイルを強いられ、気が付けば今はそれが当たり前のように定着するまでになりました。

第22回大会も、ハイブリッドを含めた対面で開催するか、対面で開催としながらも不測の事態に備え同時並行でオンラインの準備を進めるか等々、さまざまな意見が支部会でも出ましたが、対面に踏み切るのは時期早々、対面とオンラインの準備を同時並行で進めるのは業務的負荷が多いということで、消去法になります。今回に関してはオンライン開催という結論に至りました。

あらゆる学会ではオンライン開催が一般化しており、今や対面開催のほうが少ないのではないかと推測されますが、オンラインだと移動に伴う費用や時間の負担が軽減されます。しかし皆様方の交流を考えたとき、その場合、対面に勝るものはございません。さらに南北に長い日本の場合、移動があるからこそ冒頭の季節感も体感できるわけです。

昨年度はまさにオンライン元年であり、勉学はもちろんのこと、学生の就職活動やインターンシップも様変わりしました。特に新入生はオンラインでしかキャンパスを知らず、友人もできず、理想とはほど遠い学生生活となってしまいました。今年度は対面授業に舵を切った学校がほとんどですが、それは就職活動やインターンシップにおける企業も同様です。しかしこの原稿を書いている今、変異株が全国で猛威を振るっていますので油断はできません。

インターンシップに話を戻すと、あらゆる真価が問われるのは今年度です。オンラインしか選択肢がなかった昨年度と違い、今年度は多くの企業で「対面」「オンライン」「ハイブリッド」という複数の選択肢を用意しています。一択しかなかった場合の満足度と複数選択肢がある場合の満足度は当然違います。全てのカードが出揃った今年度こそ、新しいインターンシップの在り方が問われ、第22回大会でも活発な議論がなされると考えます。

オンラインによるメリット・デメリットはさまざまありますが、人は便利から不便に戻ることをよしとさせません。同時に便利の裏側にある落とし穴も経験しています。正解がない時代の混沌とした時期での開催になりますが、皆様方にとって実りある大会になるべく準備、運営していく所存です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

(第22回大会実行委員会 委員長 原 一将・札幌国際大学)

### 理事会報告

#### 2021年度 第4回理事会(2021年2月6日 \*書面会議)

入会審査と第22回全国大会の開催に関する審議を議案とする書面会議を実施しました。併せて、広報委員会と年報編集委員会の活動が報告されました。議事の概要は、次のとおりです。

(議案1) 入退会の審査

- ・入会願が提出された3名の個人会員（学生会員1名を含む）と1件の法人会員の入会が認められた。  
（議案2）日本インターンシップ学会 第22回大会（全国大会）について
- ・開催担当地区である北海道支部より、第22回全国大会の開催の概要（開催時期・開催方法・大会プログラム・開催までのスケジュール）が提案され、審議・承認された。

### **2021年度 第5回理事会(2021年5月3日\*Web会議)**

理事の改選に伴う選挙管理委員の選出と選挙に関わるスケジュール、WACEとの連携、第22回全国大会の開催と高良記念研究助成ならびに榎本記念賞に関する議案など、6つの議案の審議するため、Web会議を開催しました。併せて、各委員会（広報委員会・年報編集委員会）と各支部（北海道支部と九州支部）の活動、事務局からの報告がありました。議事の概要は、次のとおりです。

（議案1）入退会の審査

- ・入会願が提出された1名の個人会員の入会が認められた。

（議案2）選挙管理委員の選出と選挙に関わるスケジュールについて

- ・2021-2022年度の理事の選出に関わる選挙管理委員の選出方法と今後のスケジュールを審議し、承認した。

（議案3）日本インターンシップ学会 第22回大会（全国大会）について

- ・第22回全国大会の開催要領（案）について審議を行い、開催日程・開催方法・大会プログラム・参加申込・開催までのスケジュールを承認した。参加費用・要旨集の作成に関しては、引き続き実行委員会で議論し、決定することになった。

（議案4）WACEとの連携について

- ・WACE（世界産学連携教育協会）と本学会の連携について、これまでの経緯を踏まえ審議を行った結果、企画研究委員会において議論を行い、継続して審議していくことを決定した。

（議案5）高良記念研究助成ならびに榎本記念賞について

- ・高良記念研究助成ならびに榎本記念賞の応募から表彰に至るスケジュール、募集要項（申請書の形式）・審査基準等の審議を行い、これを承認した。

（議案6）学会HPにおける役員 page の掲載方法について

- ・学会HPにおける役員 page で割愛されている名誉会長・名誉会員、顧問を以前と同じく、掲載する方向で調整を進めることが、審議の結果、承認された。

（事務局長 山口 圭介・玉川大学）

### **年報編集委員会報告**

今期の年報編集委員会は、2020年6月という変則スタートでしたが、前執行部体制下での2020年6月研究年報22号発送までにかかる混乱の収束に注力し、ひとまず第23号を2020年11月に刊行し、みなさまのお手元にとどけることができました。特に第23号では、特別記事としてこれまでの研究論文一覧をQRコードつきで紹介し、会員の研究発展のための参考情報として提供させていただきました。

第24号の編纂においては、前号のニュースレターで案内しましたように投稿期日を1ヶ月繰り下げるとともに、研究年報の内容についても、年報編集委員会において検討をしました。特に課題となったのは第23号検討時点で明らかになっていたことですが、インターンシップが教育、雇用の政策的に、また社会的に広く注目されているなかで、本学会の研究年報では、近年、研究論文としての採択が少なくなっていることでした。

そこで、年報編集委員会では、会員の研究論文投稿の支援のための特集を企画することとしました。また、そのテーマは『インターンシップから職業統合的学習へ』ということで、検討の早い段階で合意ができました。

このテーマは、会員諸氏が、本学会の研究対象範囲を再確認しながら、どのような方向で学会の研究交流と発展に寄与していくのかという、会員のリフレクションのために用意しています。2013年の文部科学省「体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議」において「職業統合的学習（Work Integrated Learning）」としてのインターンシップ理解が提唱されたことをうけて、本学会では2013年9月には、学会英語名に'Work Integrated Learning'を加えています。会則第1条は次のように言います。

本会は日本インターンシップ学会（The Japan Society of Internship and Work Integrated Learning）と称する。学会のインターンシップの定義は「学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と幅広くとらえ、学校と企業等との連携により行われる形態を基本とする。

会則のこの定義は、学会の研究可能性の範囲を広く示すためのものであるが、その趣旨が十分に理解され広がってはいないと考えて、年報編集委員会でこの特集テーマを企画したという次第です。

現在、この特集への寄稿原稿も集まり、自由投稿で受け付けた論文等とともに、前号でご案内した10月下旬刊行を目指し、鋭意査読・編集の工程を進めています。

（年報編集委員会委員長 吉本 圭一・滋慶医療科学大学）

## 広報委員会報告

### NEWS LETTER 発行について

広報委員会では、年2回（春、秋）にNEWS LETTERを発行し、会員の皆様に学会活動の情報をお届けしています。

### 学会ウェブサイト・メールマガジン配信について

広報委員会では本学会に寄せられた研究会やセミナー開催案内および教員公募等、会員の皆さまにとって有益な情報を学会ウェブサイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。

本学会に関連する情報がございましたら、広報委員会までメールでご連絡ください(jsi.prc@gmail.com)。なお、最終的な掲載可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承ください。

### 会員情報更新・アドレス連絡について

新年度を迎え、異動等で会員情報が変更された場合（メールアドレスや所属など）には、学会ウェブサイトトップページの「会員情報照会・更新」アイコンから各自で情報更新をお願いいたします。

オンライン大会に伴い、学会からの連絡はメールでの連絡が増えております。アドレスが変更された場合は、必ず変更いただきますようお願いいたします。

（広報委員会委員長 江藤 智佐子・久留米大学）

## 学会表彰委員会報告

### 2021年度（第15回）高良記念研究助成について

本学会では、2007年度からインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進に向けて「高良記念研究助成」制度を設け、優れた研究課題への研究助成を行っております。2020年度（第14回）は、2件の応募があり、学会表彰委員会の厳正なる審査のもと、柴田仁夫会員（岐阜大学）の「コロナ禍における中小企業のインターンシップへの対応」が採択されました。

2021年度（第15回）の研究助成に関する応募期間や申請書類などの詳細につきましては、学会ウェブサイトに掲載させていただきます。是非、多くの応募申請をお待ち申し上げます。

### 第4回榎本記念賞について

本学会では、大阪経済大学元教授で初代関西支部長を務められた榎本淳子氏からのご寄付をもとに榎本記念賞が創設され、インターンシップの発展と高度化を願い、「秀逸なインターンシップ」事例の収集し、2年に1回の表彰を行って参りました。第3回榎本記念賞では、支

部から推薦された事例の中から、最も秀逸な事例1件、秀逸な事例4件を選定いたしました。

第4回榎本記念賞は、今年開催される第22回学会大会にて表彰を実施する予定となっております。選考対象は、大学・短大、高専、専門・専修学校、中学校・高等学校等の取組みで、2019年6月から2021年5月末迄の2年間に各支部研究会ないし学会大会で発表された事例の中から、各支部より推薦をいただく予定です。選考のスケジュールおよび評価項目などの詳細につきましては、学会ホームページに掲載させていただきます。

（学会表彰委員会委員長 古閑 博美・  
学校法人練馬みどり学園田柄幼稚園）

## 企画研究委員会報告

企画研究委員会は、学会員のさまざまな学術的、実践的な研究活動、特に共同での研究活動を促進するとともに、学会として必要とされる研究活動を企画する委員会です。今年度は、「実践を学術研究・論文作成に結びつけるための論文の書き方」講座を開催する予定で進めております。

この点、東日本支部では「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」と題するテーマで、第2回研究会（2021年2月26日）が開催されました。オンライン（Zoom）開催のため、全国の会員の方々が多く参加した研究会であったため、テーマや内容が重ならないようにとの配慮から、内容の調整や修正を行ってまいりました。

これまでの講座とは異なり、インターンシップに関する論文を選定し、企画者側及び参加者双方が読み込んだうえで、論文の構造などを分析し、コメントを入れながら、論文の書き方を学んでいく講座の開催を検討しております。

Zoom等のオンライン開催を取り入れ、全国の会員の皆さまに参加して頂けるように企画しております。各種企画の詳細につきましては、学会ウェブサイト等でお知らせしますので、どうぞよろしくお願いたします。

（企画研究委員会委員長 薬師丸 正二郎・立教大学）

## 選挙管理委員会からのお知らせ

2021年5月3日に開催されました第5回理事会において、2021-2022年度を任期とする理事選挙については、以下のとおり、承認されました。なお、コロナ禍による特例措置として、選挙にかかる事務作業を事務局が代行し、選挙管理委員会と連携しながら作業を行うことが承認されました。

#### ＜選挙管理委員の選出方法＞

- ・各支部より選挙管理委員1名を推薦。
- ・支部から推薦された委員の互選により、委員長を決定する。

#### ＜選挙方法＞

- ・選挙管理委員会からの依頼を受け、投票用紙発送等にかかる作業は事務局が代行する。
- ・6月末までに、新理事候補を選出。

2021-2022年度の理事選挙の実施にあたり、選挙管理委員会委員として石田 麻英子会員（北海道支部）、吉田 雅也会員（東日本支部）、松高 政会員（関西支部）、福岡 哲朗会員（九州支部）の4名が委嘱され、選挙管理委員長に吉田 雅也会員が選任されました。

第1回の委員会において、投開票の方法について議論をいたしました。選挙規定に基づけば、「郵送での投票」となりますが、全国のコロナ感染拡大状況を鑑み、安全な選挙方法を再検討することとなり、現在調整中です。詳細につきましては、追って学会ウェブサイトにてお知らせいたします。

（選挙管理委員長 吉田 雅也・淑徳大学）

## 支部活動報告

### 【北海道支部】

#### 北海道支部 2020年度総会・第1回研究会を開催

2021年3月21日（日）、オンライン形式にて、2020年度の北海道支部総会および第1回研究会を開催いたしました。本会には11名の方にご参加いただきました。

総会では、2019年度の活動報告および、2020年度の間活動報告、さらに2021年度の活動計画について議論が行われ、すべての議案が承認されました。

また2021年9月に開催を予定している第22回大会について、札幌国際大学の原 一将会員（北海道支部副支部長）が、大会実行委員長として推薦、承認され、北海道支部メンバー全員の協力の下、大会実行委員会を組織して開催に向けて活動することが決定されました。

総会終了後には研究会が実施され、2件の研究発表が行われました。今回の発表者と題目については以下の通りです。

- ① 原 一将会員（札幌国際大学）「コロナ禍におけるWEB型インターンシップの現状 報告」
- ② 椿 明美会員（札幌国際大学）・和田 佳子会員（札幌大谷大学）「混合研究法を用いた、文系学部卒業生調査分析の試み」

北海道支部の活動は、2020年2月以来1年ぶりとなり、また今回の研究会の開催についてもオンラインで行われたことで、これまでとは異なった形とはなりましたが、総会・研究会での議論は活発であり、大きな問題な

く開催することができました。

原会員の発表は、コロナ禍におけるインターンシップの実施について、企業の現状をインタビュー形式で収集した貴重な資料であり、参加者の関心を集めました。

また椿・和田会員が報告した混合研究法は、質的・量的データを統合して研究の深化を図るメソッドであり、複雑化する社会を理解するための研究手法として、デザインされているものです。今後も、さまざまな研究手法によって、研究の活性化が図られていくことが期待されます。

（北海道支部 支部長 小林 純・札幌国際大学短期大学部）

### 【東日本支部】

#### 2020年度第2回支部研究会

第2回支部研究会は、2021年2月27日（土）に「インターンシップ研究の意義と手法」をテーマにオンライン（Zoom）で開催しました。

今回は、講師として立命館大学大学院の古田 克利会員をお招きし、インターンシップ研究の原点とも言うべき研究の意義についての議論と考察をおこなうとともに、インターンシップ研究の多様な研究の手法についての理解を深め合うことを目指し、古田会員の講演とグループワークによる意見交換を行いました。

また自由研究発表では、佐藤 勝彦会員（プレーメン経済工科大学）より「ドイツの専門大学(Fachhochschule)におけるインターンシップ(実習セメスター)の研究とその意義」についての研究報告がありました。

今回50名を超える申し込みをいただき、盛会のうちに支部研究会を終えることができました。

#### 2020年度第3回支部研究会

第3回研究会については、新型コロナウイルス感染拡大の状況であることから、会員の皆様の参加しやすい時期や内容を含め検討しております。今後予定が決まり次第、会員の皆様にご案内をさせていただきます。

（東日本支部 支部長 松坂 暢浩・山形大学）

### 【関西支部】

#### 関西支部運営委員会を開催

関西支部では、第20回大会（2019年夏に近畿大学で開催）の基調報告とシンポジウムを「大会の部」に掲載した「インターンシップ研究年報」第23号が発刊されたことを受け、年報編集委員会のご了解を得て、「基調講演」と「シンポジウム」に分けて抜き刷りを作成しました。第16回大会のあとと同様、登壇者や支部関係者（楨本顧問や関係者のご遺族を含む）にお送りしたところ、皆さまに喜んでいただくことができました。

また、5月にWeb投票など電子媒体を活用した支部運営委員会を開催しました。コロナ禍第4波が大府府・

兵庫県を中心に猛威を振るい（1日の新型コロナ新規感染者のGW前後ピークが大阪府1,262人<第3波ピーク654人>、兵庫県629人<同324人>）、医療崩壊の寸前とも言われるほど深刻な状況（1日の新型コロナ新規死者のピークが大阪府55人<第3波ピーク19人>、兵庫県39人<同15人>）にあることから、例年は8月に開催している支部研究会を12月に開催することを決定しました。2020年もコロナ禍で研究会開催が12月となりましたほか、2019年夏には支部で大会を開催したことから、3年連続で研究会開催が12月となります。

開催支部研究会の詳細が決まりましたら、学会ウェブサイト等でご案内いたします。

（関西支部 支部長 安孫子 勇一・近畿大学）

### 【九州支部】

#### **2020年度 九州支部運営委員会を開催**

2021年5月8日（土）に九州支部運営委員会をオンライン（Zoom）で開催しました。2020年度は学会年度と支部年度を統一する移行期間だったため、次期役員体制についての検討がなされました。

また、学会年度が改まる2021年7月下旬に、支部総会と第26回研究会をオンライン（Zoom）形式で開催することが決定しました。研究会のテーマ、日程が確定しましたら学会ウェブサイト等でご案内いたします。

（九州支部広報委員 安田 麻季代・4TuneShape 株式会社）

## 事務局からのお知らせ

### 会費納入のお願い

2021年度の会費納入につきまして、払込取扱票を同封させていただきます。会費納入をお願い申し上げます。

なお、2020年度以前の会費の納入につきましては、以下の口座にお振込みいただきますようよろしくお願い申し上げます。

#### **納入先**

郵便口座：02750-1-108419

口座名義（「加入者名」の欄）：

日本インターンシップ学会

ゆうちょ銀行 口座番号：

店番：279（当座）108419

口座名義：日本インターンシップ学会

**\*振込にかかる手数料等は各自でご負担ください。**

### 会員情報変更の連絡について

新年度を迎え、ご所属等が変更になられた会員の皆さまもおられることと存じます。会員情報の修正が必要な場合は、お手数ですが、学会ウェブサイトへアクセスの

上、システム（SOLTI：会員情報照会・更新）にログインし、各自で修正を行ってください。

（事務局長 山口 圭介・玉川大学）

**日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2020 No.2**

発行日：2021（令和3）年5月27日

発行：日本インターンシップ学会

会長 折戸 晴雄

編集：日本インターンシップ学会広報委員会

委員長 江藤 智佐子

e-mail：jsi.prc@gmail.com

印刷：日本インターンシップ学会事務局

事務局長 山口 圭介

e-mail：jsi-sec@js-internship.jp